

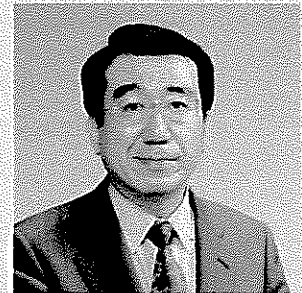
特別寄稿

東工大が日本経済再生の起爆剤となることを期待する

有限会社 陽明エンジニアリング 代表取締役 竹内 利明

日本経済が危機的な状況に陥るなか、日本国民は一日も早い経済再生を切望している。この経済再生の鍵を握るのが、ベンチャーによる新しい産業の創出である。

東工大は、産業界から常に日本の工業技術研究のリーダーとして期待されている。大学における、将来を見据えた基礎研究も大切だし、将来を担う若者を教育することも尊いが、産業界は現在、それよりも日本を代表するハイテクベンチャーが東工大から生まれることを期待している。このハイテクベンチャーの成功をきっかけに、多くのベンチャーを輩出し、日本経済再生の起爆剤となることを希望している。日本は、工業・技術を中心に経済発展した国だけに、ものづくりを基礎に経済再生を図ることが、自信を取り戻す一番の早道である。新しいサービス産業の創出も重要だし、工業だけでは経済を再生できないことも認識しているが、それでも日本経済再生の起爆剤は、本物の技術に裏打ちされたハイテクベンチャーであって欲しい。このハイテクベンチャーが生まれる可能性が一番高い大学、そして、産業界が一番期待している大学こそ東工大である。東工大の研究者の1%、いや何人かでもよい、本物の技術を基礎にベンチャーにチャレンジし、そのうち一つでも二つでも成功すれば、日本経済再生のきっかけになるものと確信する。誰かに期待するのではなく、あなたが期待されていると受け止めて欲しい。



しかし、ここで、失敗したチャレンジャーは、どうなるのかという問題がある。ベンチャーの成功率はまだ低いのでチャレンジャーが生まれにくい。しかし、最近政府のベンチャー支援制度も整備されてきた。特に、東工大を代表するチャレンジャーが名乗りを上げれば、これを成功させることが、日本の経済再生の鍵を握るので、多くの支援者を得ることは間違いない。私も微力ながら協力させていただきたいと思う。

しかし、ここで重要なことは、それでも残念ながら失敗した場合にそなえ提案がある。事前に東工大代表として認められチャレンジしたが失敗した場合、東工大が再度受け入れ、例えば限定的に2年程度雇用し、ベンチャー特論を担当したり、再チャレンジの基地としてVBL施設を提供する制度を確立したらどうだろう。これなら優秀なチャレンジャーが生まれるのではないか。チャレンジしたが失敗した者を救う体制を確立することで、多くのチャレンジャーが生まれるならVBLの本来の目的にもかなうと考え提案する。